知り、つながり、止める戦争止めよう！

沖縄・西日本ネットワーク結成集会報告

山本みはぎ

2022 年 12 月に岸田政権（当時）によって軍事費の倍増や「敵基地攻撃能力」の保有が盛り込まれたいわゆる、安保 3 文書（国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画）が閣議決定されて以来、与那国島や石垣島、宮古島などの琉球弧の島々はもとより、奄美や九州、西日本で対中国を念頭に、長射程のミサイル配備や大型弾薬庫の建設など急激な軍拡が進み戦争準備が加速化しています。この状況に対し、各地の実態を知り、運動をつなげ、戦争準備を止めようと、昨年 4 月から準備がされ、4 月に愛媛、8 月には沖縄で、9 月に広島・呉、11 月には大分で集会を重ね、2 月 22 日、鹿児島市で西日本各地からオンライン含め約 500 人（約 30 団体）の参加で「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」の結成集会が開催されました。集会に参加したので報告します。

第一部　地元、鹿児島からの報告

最初に、「沖縄・西日本で進む軍事強化の報告 抗う私たちの平和運動」ということで、軍事化が進む各地の実態を 30 分のスライドにまとめ概要の説明がありました。当日配布された A3 版の琉球弧から西日本各地の自衛隊基地、米軍基地や弾薬庫など地図をみるとその実態のすさまじさがよくわかります。

※全国の基地概要報告は以下で視聴できます。
https://youtu.be/MzDriE0px7A

続いて行われた地元からの報告では、種子島沖合の馬毛島に、巨大な陸海空自衛隊の訓練施設や戦時の展開拠点、米軍の空母艦載機離着陸訓練用のための基地建設が進められている西之表市から「馬毛島への米軍施設に反対する市民団体連絡会」の長野広美さんから報告がありました。長野さんは、「かつては 500 人が住み、マゲシカで有名な緑豊かな島だった。2010 年代に違法開発が進んだが鹿児島県は何も対策をしなかった。その中で、FCLP の話がでて、馬毛島を守ろうということで裁判闘争などもやった。2023 年 1 月から 2 本の滑走路、不整地着陸訓練施設、F-35B 模擬艦艇発着艦訓練施設、陸上の訓練区域を含む本体工事を開始した。その費用は 1 兆円を超えている総予算は示されておらず、工期も当初計画より約3年延期し、30年3月末になるという。自衛隊の訓練は通年でしかも夜間訓練も含まれる。滑走路は 2 本で、うち 1 本は F35B 専用の訓練用滑走路、そして空母も接岸できる巨大な港湾も計画されている。院内集会を行い、環境権の視点から日弁連から働き掛けを行うように運動をしている。また、市長相手に住民訴訟も始まった。国は国会議員の現地視察を許していない。これからも関心を持ってもらいたい。」と発言がありました

奄美大島からは、「戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット」の城村典文さんから発言がありました。「2019 年 3 月、陸上自衛隊奄美駐屯地と瀬戸内分屯地が開設され、2 月に国民保護法に基づく避難訓練が行われた。奄美群島から住民 10 万人を避難させるのに 14 日かかる。陸自は開所記念行事を毎年行っている。瀬戸内町は自衛隊に依存し、自衛隊のパレードも町主催でやり地対艦ミサイル車両も走行し軍事色に染まっている。徳之島では、「生地（なまち）訓練」といわれる住民が住んでいるすぐそばで訓練が行われている。世界遺産の森で米軍と自衛隊が山地訓練を行い、傷兵トリアージ訓練を行っている。オスプレイの訓練ルートになっていて昨年は 80 回も飛んでおる。昨年のキーンソード 25 で島内の 37 ケ所で「離島奪還訓練」が行われた。沖永良部島でも、沖合に停泊させた米艦船から、米兵・自衛隊が上陸訓練を行った。島内の運動公園でも米軍ヘリを使った訓練が行われ小銃を構えた隊員が「敵陣捜索行動」と称する実戦さながらの訓練が行われた。反対の声をあげているが参加する人は少ない。悔しい」と島で進む軍事訓練の実態と心情を吐露されました。

弾薬庫の新設計画がある、さつま町からは「さつま町の弾薬庫問題を考える会」の、武さとみさんか

ら報告がありました。「2023年10月に新聞にさつま町に弾薬庫という記事が出た。情報公開で明らかになったのは、町が住民には知らせず誘致していた。2017 年に個人で誘致に向けて陳情を提出し、2018 年には商工会と議員と町職員が大分の駐屯地を視察し、5月には商工会と議会が請願書を提出していた。23 年 5 月までに 9 回の請願書を出し、11月には防衛大臣に要望書を提出した。請願の内容には、オスプレイの発着場や実弾訓練なども入っていた。部隊運用上の利便性が高いということで中岳に決まった。町と話し合いを持ったが戦争になったら責任が取れるかということに対しては『国民保護の事案なので地方自治体の責任ではない』と回答した。怒り心頭だ。思惑通りに進めてなるものかという気持で頑張る。」と発言がありました。

総がかり行動の高田健さんから連帯のあいさつは、「2014 年に戦争法が閣議決定された時、このままでは『戦争をする国』になると総がかり行動を作った。今は『戦争ができる国』に直面している。安保法制や安保 3 文書は、改憲もなく安保条約の改定もしないまま本質的に憲法を壊していく。国会の中でこの問題が議論されていない。国会には期待できないので私たちが運動を作って国会議員に働きかけていく。これは全国共通の課題。」と全国的な運動へと発言がありました。

第 2 部は結成総会

愛媛に高井弘之さんから「知り、つながり、止める」と題した基調講演があり、その後、「沖縄・西日本ネットワーク」の結成提案が行われました。

高井さんからは、「中国脅威論の克服と解体」が必要だ。ナチスのケーリングが国民を戦争に参加させるには「今我々は攻撃されかけていると煽ればいい」と言っている。各地各団体個人が連携して連帯をして反対をしていくことが大事。国家をあげて進めているのでそれぞれの地域だけで闘って止めていくのは本当に困難なこと。支援し合って同時に全国的な共同の闘いを作っていくことで戦争を止めることができる、と思う。6 月に東京で行動を起こし、それをステップに全国的な運動にしたい。国家による戦争を私たち民衆の力で必ず止めよう。東アジアの平和を必ず実現させよう。」と発言があり、結成提案は若干の質疑の後、正式に発足しました。

今回は、沖縄・西日本が中心ですが、愛知は各基地、弾薬庫に配備・保管される長射程ミサイルの製造を行っている、ということで確実に各地と繋がっています。3 月 18 日、いよいよ 12 式地対艦誘導弾が大分の湯布院駐屯地と熊本の健軍駐屯地への 2025 年度配備を開始すると報道されました。戦争ができる体制作りを総力で作り上げ、自由や平和に生きる権利を蔑ろにする政策を押し進めようとする権力に対し、地域でやるべきことを実行しつつ、全国とつながり、戦争につながるものを止めていきましょう。

戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワークへの参加・賛同方法

※参加団体は、沖縄・西日本の地域団体・個人
※賛同団体は、全国の団体個人
※メーリングリストへの申し込み先
okinishinet@gmail.com

結成宣言文

「戦争」も「武力による威嚇」も否定し、「陸海空軍その他の戦力を保持しない」と宣言した日本国憲法のもと、私たちの「戦後」は80年を迎えます。しかし、この国は、アジアの国々・人々への侵略・植民地支配の責任に向き合うことなく、また、自国の戦争被害者に対する責任も放棄したまま、新たな戦争体制づくりを急スピードで行っています。
沖縄・奄美の島々では、新たな自衛隊基地が造られ、攻撃用のミサイルと部隊が配備され、戦争態勢の構築が行われて来ました。その軍事拠点化は、いま、九州を中心に西日本から全国に拡大しています。
莫大な税金を使って、弾薬庫の建設や基地の大拡張が強行されています。全国各地で、自然破壊、住民の分断、人権侵害が行われています。国際法が求める「軍民分離の原則」に反し、住宅地のすぐそ

ばへの軍事施設建設、民間の港湾・空港の軍事利用、公道を軍事車両が走行するまでになっています。そして、沖縄島の住民には「屋内退避」が、宮古・八重山・奄美などの住民には生活を捨てて、リュック一つで、攻撃対象にもなりうる九州や山口への「避難を名目にした疎開」が強要されています。これらは実効性のない計画です。
さらに政府は、自衛隊司令部の「地下化・強靭化」を全国で進めています。住民の命をないがしろにしたまま、戦争を遂行しようとしています。これは、住民に多大な犠牲を強いた 80 年前の沖縄戦をこえ、全国を破壊する戦争計画です。
また、米日・NATO 諸国などによって、経済的に深い結びつきのある中国を「仮想敵」とする合同軍事演習が日本各地・周辺海空域や南シナ海などで繰り返され、「中国包囲網」の構築が行われています。そして、いよいよ中国に届く敵基地攻撃ミサイルの配備が、琉球弧―日本列島で始まろうとしています。「大軍拡」を超えた臨戦態勢の構築が目前で行われています。私たちは戦争の加害者にも被害者にもなりたくありません。
「知り、つながり、止める。」
平和を創り出すために、本日、私たちは新たな闘いに歩み出します。互いの情報を共有し、知恵を出し合い、つながり、連帯し、市民の共同の力で、「国家による戦争」を止めます。
ここに、「戦争止めよう！　沖縄・西日本ネットワーク」の結成を宣言します。

2025年2月22日

馬毛島訪問記

鹿児島での集会のあと、種子島に足を延ばした。馬毛島にも上陸できるかもしれないということだったが、24 日朝は、鹿児島も天気が悪く雪がちらつく冷え込みで、桜島もうっすら冠雪をしていた。
港で迎えてくれたのは、西之表市議の和田かおりさんとお連れ合いの和田伸さん。かおりさんは、不戦ネットのオンライン講座をお願いしたことがあるが初対面。想像通り、気さくでパワフルな方だ。この日の種子島は海には白波が立ち荒れていた。天気が回復するかもしれないと午後 3 時まで待っていたが、残念ながら馬毛島への上陸は叶わなかった。

港には、建設資材がたくさん置かれており、沖合には馬毛島が見える。遠目にも、強風で砂塵が舞っているのがわかる。作業は、ほぼ 24 時間体制で続けられており、夜間でも煌々と明りが見える。工事を急ぐあまり、安全対策も不十分で去年10月に作業員が死亡する事故が起き、翌11 月には2人が重傷を負う事故も起きている。

馬毛島には、作業員 3000 人が常駐し、種子島には約 2000 人の作業員が宿泊し通っているという。町の至る所に作業員の宿泊先になるコンテナハウスが立ち並び、その家賃の高さにはびっくりする。（写真のハウスは 18000 円（1日です！）どれだけ高給をもらっているのか想像する。全国各地から作業員が集まり、車のナンバープレートも実に多彩だ。おかげで、種子島ではあらゆる職種で人手不足が起き、家賃の高騰など島の生活の様々な影響が出ているという。自衛隊の官舎の建設も進み、見学したところは既に3棟がほぼ完成していた。航空自衛隊の先遣隊が、早ければ今年 7 月にも島に配置され、60 人規模で基地の開設の準備にあたるという。

西之表市内で、「馬毛島自衛隊基地との共存共栄、若者に子どもに明るい未来を！」と書いた看板を見た。かつて福島県双葉町にあった「原子力　明るい未来のエネルギー」という看板を思い出した。結局、原発は地元の生活や自然などすべてを破壊したが、戦争のための基地もまた何も生まないどころか、ひとたび戦争が起これば多くのものが失われる。本当に子どもたちに明るい未来を手渡すためには、基地のない、武器のない、戦争のない社会を作るべきだ。基地は人々の生活を壊し、自然を壊すものだ。短い滞在だったが、地元で頑張っている人たちと改めて連帯し、つながっていこうと思った。

基地建設までの経緯と基地の概要

2019年1月、政府は国の鑑定評価額45億円のところ、160 億円で国会審議もせず、辺野古の米軍基地建設関連予算からの流用という形で購入した。

2022年1月、防衛省は馬毛島基地整備の影響を調べる環境影響評価（アセスメント）の途中段階で本体工事の発注を開始し、2023 年 1 月、防衛省はアセスメントの評価書を公告し基地の本体工事を開始した

馬毛島基地は、陸海空自衛隊の訓練と米軍空母艦載機陸上離着陸訓練（FCLP）などが行われる。2500mと 1800mの二本の滑走路と不整地着陸訓練施設、F-35B 模擬艦艇発着艦訓練施設などを建設し、関連施設として、誘導路、駐機場、格納庫などの他、港湾施設も整備される。工事期間は当初の予定より3年間延長して、2030年3月末完成予定で、2025年度は、施設整備費として473億円（滑走路などの費用394億円、隊舎や格納庫などに50億円、係留施設などに11億円など）を計上し、すでに１兆円を超えている。しかも、工期の延長分は含まれずさらに膨らむことは確実だ。

馬毛島の闘い

西之表市の八板俊輔市長は、当初用地買収契約合意に当たり、当初、FCLP の移転に対し「地元の理解は得られていない」として難色を示していたが、公約に反して馬毛島の小中学校跡地および自衛隊宿舎用地の売却ならびに市道廃止処分を行った。このことに対して、住民は裁判を起こして争っている。訴訟の共同代表の一人である、和田かおりさんは「私たち市民が失ったものは、単なる土地や道路ではありません。「宝の島」馬毛島がもたらすはかり知れない豊かな未来と、それを夢見て実現していくであろう子どもたち孫たちに手渡す、馬毛島・種子島の静かで平和な暮らしです。」と裁判意義を訴えています。

馬毛島基地反対裁判を支援する会
https://observant-mageshienkai.wordpress.com/
※裁判の支援者を募っています。

送金先
馬毛島基地反対裁判を支援する会
　鹿児島銀行　本店
　普通預金　3235521
　「馬毛島基地反対裁判を支援する会」
　個人1口1000円　　団体1口5000円

※メールニュース希望者は以下に
　kaori.wada528@gmail.com